



国民の森林・国有林

中部森林管理局

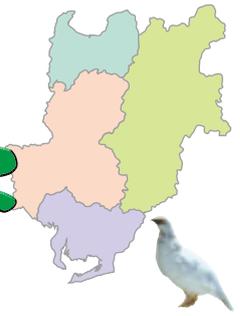
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



木曾青峰高校 木村・三沢・楢本・西村さん



会場の風景



名古屋大学 小谷さん



飛騨高山高校 田中さん



上伊那農業高校 征矢・保科さん



長野林業大学 生駒・向山さん

学生も参加して、盛会に開催

平成20年度 中部森林技術交流発表会

(P 2 に関連記事)

主な項目	○ 平成20年度中部森林技術交流発表会を開催…………… P2~3
	○ 各種贈呈式 …………… P4
	○ 風景紀行 …………… P8



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

試験研究・林業体験活動等を発表

〔中部森林技術交流発表会〕

「指導普及課」二月四～五日、ウエルン
ティ長野二階、「樹林の間」において、
平成二十年度中部森林技術交流発表会を
開催しました。

この発表会は、管内各森林管理署等、
各県の試験研究機関、大学、高等学校、
関係団体等が、日頃から取り組んでいる
森林・林業に関する試験研究、林業体
験・ふれあい活動等の取組について発表
し、関係者相互の交流を深めるととも
に、更なる森林・林業の推進と各成果の
普及に資することを目的とし毎年開催し
ているもので、今年には各森林管理署等か
ら十三課題（市・町・大学との共同発
表三課題含む）、民有林関係等（長野県）
から一課題及び学生から六課題（大学一
課題、林業大学校一課題、高等学校四課
題）の計二十課題の発表となりました。

一日目は、平野局長による「この発表
会が民有林、国有林、研究機関、教育機
関等の方々の技術的連携を図る恒例的
行事として続いてきていることを嬉しく
思う：林業関係者の日々の研鑽・技術的
進展と、発表に至るまでに培ったネット
ワークづくりを今後さらに深めてもら
いたい」という挨拶がありました。その
後、国有林関係から、森林施業、治山事
業、森林ふれあい活動など幅広い分野の
発表があり、午後、民有林関係から間伐

関連技術の発表が行われました。

二日目は、飛騨高山高校、上伊那農業
高校、木曽青峰高校、長野県林業大学
校、名古屋大学の学生により、勉学の成
果が発表されました。

発表終了後、審査委員代表の植木教授
（信大農学部）と山田准教授（名古屋大
学大学院）から講評として、「いずれも
素晴らしい発表揃いで、優劣の差は少な
く、広く国民に発信する価値がある。な
お数値データを示すことができれば、一
層科学的で説得力のある発表となる」と
の貴重なアドバイスをいただきました。

その後、計画部長から国有林の審
査結果として優秀賞三課題が発表され、
引き続き、県発表者へ林業振興賞、学生
発表者へ局長奨励賞の贈呈を行ったあと
国有林発表者の表彰が行われ、閉会しま
した。

今回は、発表者・傍聴者等を含め約
百六十名の参加者があり、盛大なもの
となりました。

局としては、今後とも森林・林業の推
進と普及に努めていくこととしており、
各署等での技術開発や森林ふれあい活動
への積極的な取組を強く期待しています。
発表者、課題名及び受賞者は次のとお
りです。

■国有林の部

◎局長賞 優秀賞

・ 関田山脈を利用した信越トレイルの整

備・活用について

小林 常正（北信森林管理署）

高野 賢一（信越トレイルクラブ）

・ ソイルセメントを用いた治山ダムの
構築（INSEMI工法）

川本 淳（岐阜森林管理署）

山田 好男（ ）

・ 地域・利用者のニーズに応える森づく
り（眺望伐開を取り入れた森林整備）

酒向 篤憲（愛知森林管理事務所）

日比野慎也（ ）

◎局長賞 努力賞

・ 浅間山麓におけるカラマツの天然更新
について（中間報告）

杉村 智春（東信森林管理署）

小須田 啓（ ）

・ 地域のニーズを引き出す取組み
「郷土官」共同企画を通じた森林林
業の普及

井元 幸子（南信森林管理署）

松村 泰代（信州大学農学部）

細川奈々枝（ ）

・ 松川入地区における民有林直轄治山事
業の実施状況と情報発信

近江澤利美（伊那谷総合治山事業所）

帆足 郁（ ）

・ 群状択伐による木曽ヒノキの天然更新
について

種子散布量と実生の消長

三村 晴彦（木曽森林管理署）

栢木 洋平（ ）

・ 赤沢自然休養林を活用した森林セラ

ピーの取組み

根井 大輔（上松町）

湯浅 翠（木曽森林管理署）

・ 末木枝条を活かす
「チップ吹付けによる自然還元への取
組み」

尾近 茂（南木曾支署）

・ 民国連携による「美しい森林づくりin
飛騨」の取組

菅野 耕治（飛騨森林管理署）

長沼 隆（高山市）

ウダイカンバの密度管理

城倉 恵介（富山森林管理署）

下牧 幹（ ）

・ 基本図でナビを作ろう

影山 成生（岐阜森林管理署）

福井 孝広（ ）

・ ヒノキ単層林の下層植生回復試験に
ついて

富士本亜弥（技術センター）

■民有林の部（林業振興賞）

・ 佐久地域に適合した高効率間伐材搬出
システムの確立に向けた取組み

三石 和久（長野県）

泉川 尚久（ ）

■学生の部（局長奨励賞）

・ 森林の大切さを伝えるために
「これからの森林活用法」

田中 良太（飛騨高山高校）

俣野 篤樹（ ）



講評する植木教授

- ・緑地工学科の取組みと2学年プロジェクト学習
- 保科 旬哉 (上伊那農業高校)
- 征矢 真広 (〃)
- 宮下 大樹 (〃)
- ・「森林の聞き書き甲子園」に取り組んで得たこと
- 西村 拓馬 (木曽青峰高校)
- 榎本 杏子 (〃)
- ・樹皮を使った紙作りによる森林資源の活用
- 木村 公良 (木曽青峰高校)
- 三澤 成貴 (〃)
- 田中 啓友 (〃)
- 諸原 利幸 (〃)
- ・巨樹巨木の森「セコイア国立公園」の森林生態
- 向山 剛 (長野県林業大学校)
- 生駒 豊文 (〃)
- 平柄 潤己 (〃)
- ・長伐期複層林施業における上木間伐に関する研究
- 小谷 芙蓉 (名古屋大学農学部)



優秀賞の授与を受ける酒向篤憲さん



優秀賞の授与を受ける川本淳さん



優秀賞の授与を受ける高野賢一さん

林業技術・治山技術

高性能林業機械における作業システムに不可欠な路網開設モデル

「南木曾支署」一月十五日、南木曾国有林において「高性能林業機械における作業システムに不可欠な路網開設モデル現地検討会」を木曾谷の林業関係者など約六十名の参加を得て開催しました。

前日の雪により足元の悪い中ではありましたが、参加者は路網を歩きながら水処理や丸太積み留めを確認しつつ、スイングヤーダ、フォワーダ等高性能林業機械による集運材作業を実際に見学しながらの検討となりました。

当署管内は、急峻かつ多雨、場所によっては「マサ土」と脆弱な地形もあり、林地への影響が最小限となる路網の設計と路体作りが求められています。このため素堀側溝による計画的な雨水の処理や、丸太積み工法を積極的に取り入れた盛土の強化等の工夫を試みました。

出席者から、「マサ土の路網に丸太積みも十分使える」、「とかく幅員は広くなりがちだが、ここは必要最小限で良い」といった意見も聞かれました。

今後については、路体の経年変化等を調査しつつ、当管内の特徴に適した低コスト・高効率作業システムの推進、普



丸太積みの説明を聞く参加者

「低コスト・高効率作業システム検討会」を開催

「販売課」一月二十一日、各署等の「低コスト・高効率作業システム」の取組成果の検討会を、松本市で開催しました。

当日は、実際に低コスト作業を実行した林業事業体をはじめ、県関係者、各署等の担当職員等、総勢約九十名が参加し、各署等での取組実績や気づいた課題などについて発表するとともに、各事業体からは、苦労したことや良かったこと、今後の取組等についてコメントがありました。

発表会終了後、森林整備部長が「低コストで高効率な作業システムを検討するに当たって」と題して、木材需要の動向と国産材供給の必要性、低コスト作業システムの普及・定着化と必要性について述べられました。



取組実績を発表する参加者

また、同会場において、「平成二十年度林野庁間伐コンクール」で優秀賞を受賞された白鳥林工協業組合に伝達表彰を行いました。参加者全員が、低コスト・高効率作業システムに対する共通認識を持つことができた検討会となりました。



岩手南部森林管理署

治山課 駐在 山岡直樹

昨年九月に、岩手・宮城内陸地震の復旧のため、中信森林管理署から東北森林管理局岩手南部森林管理署に応援派遣され五ヶ月が経とうとしています。任期の折り返し地点となりますが振り返るとあつという間でした。赴任前は入庁後間もない自分の経験の中で何ができるのか不安でしたが、激動の渦中であつて、で

きることからやるしかないと思え、現場を覚えることから始めました。署の方々の丁寧な指導もあり、今では対策メンバーの一員として役割を果たせるようになってきました。ただ、署内で飛び交う東北なまりには耳がつかない不安もあり、言葉には、まだまだ訓練が必要でです。

さて、現在、災害対策は、設計・積算を終えて多くの工事の公告・発注を行っている段階です。私は、岩手県側で最大の被災規模となった市野之原地すべり崩壊地の頭部排土工の監督員を務めています。例年より少ない雪と言われていますが、一層近くの積雪と地吹雪の中、全力をあげて工事に取り組んでいます。関係者一丸となって早期復旧を目指すと共に、個人としても技術の研鑽と経験を積みながら残りの任期もがんばりたいと思っています。



うぶすめがわ産女川のセルダム建設現場で打合せ

各種贈呈式

分収造林事業協力者に局長感謝状贈呈

〔北信署〕十二月十七日、国有林の分収造林事業に協力した者に贈られる、中部森林管理局長感謝状が、村松署長から長野市保科財産区議会議長昆幸市氏に伝達贈呈されました。

保科財産区は、保科山国有林に昭和二十五年から昭和三十六年の間、三箇所、約六十四畝の分収造林の契約を結び、現在まで森林整備の作業等を計画的に実施しています。また、造林地の育成に多くの住民が参加し、森林の重要性や林業の普及啓発に大きく貢献していることが評価されたものです。

受賞された昆議長は、「大変な賞を頂き感謝いたします。先人の皆さんの意思、これまで積み重ねた努力を引き継ぎ、今後も森林の育成に努めて参ります」と抱負を述べられました。



村松署長から昆幸市氏へ感謝状の贈呈

国有林野事業業務研究発表会で林業機械化協会会長賞を受賞

〔飛騨署・指導普及課〕十一月二十七日、林野庁において平成二十年度国有林野事業業務研究発表会が開催され、各局から二部門、計二十八課題の発表が行われました。

当局からは、森林技術部門に飛騨署（現計画課係長）の川本芳光さんが「飛騨でもできた」を目指し「民有林・国有林が連携した低コスト作業の取組」、技術センター係長の富士本亜弥さんが「ヒノキ2代目造林実験林について」、また、森林ふれあい部門にふれあいセンター自然再生指導官の寺澤茂雄さんと高嶋正明さんが「ボランティアによる木曾駒ヶ岳植生復元作業の取組」の二課題を発表しました。

その結果、「飛騨でもできた！」が林業機械化協会会長賞を受賞され、後日、局長から表彰状が伝達されました。



平野局長から川本芳光さんに伝達の様子

各地からのたより

「美しい森林づくりin

飛騨丹生川」を開催

～民有林の森林整備で連携～

【飛騨署】昨年、高山市荘川町において、国有林の低コスト・高効率間伐作業地の見学会「美しい森林づくりin飛騨荘川」を実施したことをきっかけとし、当署、飛騨農林事務所、高山市役所、飛騨高山森林組合が協働し、民有林所有者の森林整備への意欲を取り戻すべき活動として継続的に計画することとしています。

前回開催の「in飛騨朝日」に続き今回は十二月七日、高山市丹生川町を会場に、森林整備の呼びかけ及び作業現地見学を実施しました。

丹生川町内では、岐阜県が飛騨地方で初めて取り組む利用間伐推進を目指し



参加者から支援要請の声

た低コスト間伐作業のモデルプロジェクトが今年度からスタートし、団地の集約化、高密度な路網整備、高性能林業機械の導入等による健全で豊かな森づくりのモデル的な施策が進められています。

県農林事務所からプロジェクトの概要について説明があり、続いて高山市や飛騨高山森林組合から、森林整備支援に関する説明や利用間伐の実例紹介がされました。

当日は、地域の森林組合員を中心に一般の人達など八十名余の参加者があり、参加者からは、小規模な林家における森林整備の取組の困難さが訴えられるなど行政に期待する声が聞かれました。

今回で三回目となるこの取組ですが、一回の取組では区域も参加者も限られることから、より多くの地域の人達に今後森林整備推進の呼びかけを継続的に実施していくとともに、実施するうえでの問題点を検討しつつ関係機関が連携して地域の森林整備を推進していきたいと考えています。

「森林を大切に」の願いを込めて

【東濃署】十二月十一日、中津川市立付知南小学校から、五年生を代表して六名の児童が当署署長室を訪れ、自分たちで作成した森林の保護を訴える看板などの作品が寄贈されました。

付知南小学校は、当署と国道を挟んで

向かい側に所在している学校で、当署では毎年五年生児童を対象とした森林教室を実施してきました。

今年度も春に、五年生児童三十一名を対象に森林教室を実施しましたが、クラスでは、その後も独自に森林に関する学習が進められ、森林を守りたいとの思いから、森林保護を呼びかけるポスターや看板など、多くの作品を作成してきました。

今回「国有林でも活用してほしい」との提案が学校からあり、当署で活用させてもらうこととなりました。

寄贈された作品は三点で、材料には板や角材が使用され、カモシカなどの写真が埋め込まれたものや、目を引くように色づけがされるなど、創意工夫がされており「森を大切に」、「ゴミを捨てない」など、手書きで書かれた文字からは森林



思いを込めて作品を手渡す児童合せ

に対する温かい思いが伝わってきます。訪れた児童は「多くの人に見てもらい、森林を大切にしたい」と期待を込めて話していました。

薪の材料を販売

（間伐材等の有効利用）

【南木曾署】十二月十二日、当署管内の阿寺国有林において、森林整備等により放置された丸太を薪の材料として大桑村民に販売しました。これは、十八年度から取り組んでいる「森林事務所や治山事業所における新たな発想による取組」の一環として阿寺森林事務所が行ったものです。保育間伐の伐倒木や林道の危険木等の広葉樹を主体に職員が山土場に集積し、地元の皆さんに有効に利用していたことを目的として、今回が二回目の取組となります。



薪を積み込む購入者

当日は、事前に大桑村全戸に配布したチラシや新聞記事の効果もあり、販売開始時刻の九時を待たずに大勢の人が押し寄せました。阿寺首席森林官から今回の取組の趣旨説明と安全作業のお願いをした後に販売を始め、販売終了時刻の十五時までに約三十組の皆さんがトラックいっぱいには薪材を積み込み、笑顔で帰っていかれました。近年、薪ストーブの普及も進み、薪の需要も増加しているためか、購入者からは「大変ありがたい」「また販売してください」といった声が多く聞かれたほか、大桑村以外の方からも購入を望む声があったことから、今後山に放置される間伐材等の新たな利用方法として更に工夫を重ね、取組を続けていければと考えています。

溪流魚の生息に適した 森林整備を目指して

〔岐阜署〕下呂市馬瀬川流域の国有林及び民有林において、「馬瀬川溪流魚付き保全林連絡調整会議」の、岐阜県、下呂市、森林組合、岐阜署のメンバー約十名が本年度実施した、間伐及び治山事業の現地視察を行いました。

この「溪流魚付き保全林」は、平成十五年六月に下呂市（当時馬瀬村）が民有林四七〇鈔を溪流魚の保全を図るため指定したものであり、その後、岐阜森林管理署と下呂市とで「馬瀬川溪流魚付き保全林の指定に関する覚書」の調印が行



岐阜県の事業地での視察の様子

われしました。これにより、当署は市の溪流魚付き保全林の施策に協力し、隣接する国有林約一、九〇〇鈔の区域を定め、流域森林の一体的管理・施業によって、魚類の生息環境等に配慮した間伐等を推進している全国的にも先駆的な取組です。

当日は、肌寒い中での視察でしたが、県の治山事業の実施箇所、民有林及び国有林が実施した間伐箇所を見学し、各事業の進め方について意見交換を行いました。

今後も、各機関・団体が情報交換を密に行い、溪流魚の生息に適した間伐等の積極的な推進に努めていくこととします。

冬の野鳥観察会

～森林ふれあい講座～

「名古屋事務所」二月七日、瀬戸市の定光寺公園正伝池で第七回森林ふれあい講座「冬の静かな公園でバードウォッチ



野鳥に見入る参加者

ングを楽しみながら、野鳥について学ぼう」を開催しました。

瀬戸市、名古屋市を中心に応募のあった一般市民二十四名が参加しました。

当日は、春を思わせるような穏やかな風のない絶好のバードウォッチング日和となり、多くの種類の野鳥観察が出来るのではと期待されました。

はじめに、尾張自然観察会の加藤良子講師から、冬の定光寺公園周辺で見られる野鳥の種類と特徴についての講義を受け、その後、双眼鏡の使い方について学び、バードウォッチングに入りました。

正伝池にはカルガモ・マガモ・カイツブリなどが暖かい陽気にゆったりと泳いでいたり、スズメ・ハシボソガラス・ハクセキレイなども池の周辺を飛び回ったり、餌を探したりとても賑や

かでした。なかでも一番の主役は鳥の中の宝石と言われているカワセミで、背中の青色を輝かせながら、水面を飛んだり、木の梢に留まって水中の餌を窺っている様子に参加者からは「きれい！」「可愛い！」と歓声が聞かれました。多くの野鳥を観察することができ、予定の時間後もたくさんさんの質問があり、とても有意義な森林ふれあい講座になりました。参加者からは、「いろいろな鳥を見ることが出来、とても勉強になった」「楽しい時間が過ごせた」などの感想が寄せられました。

長野市耐震改修工事の 安全祈願祭開催

〔経理課〕中部森林管理局庁舎耐震改修工事の安全祈願祭が、平成二十年十二月十日庁舎中庭において催されました。

この改修工事は、昭和三十一年に建築された中部森林管理局庁舎を、平成十八年度に耐震診断を実施した結果、「地震の震動及び衝撃に対して、倒壊又は崩壊する危険が高い」と判定されたことから、平成二十年度に国庫債務負担行為で予算化され、平成二十一年度までの二年間で施工されます。

耐震診断に基づく実施設計は、(株)エーシーエ設計が行い、改修工事については十一月二十一日に長野市の(株)守谷商会と



安全祈願祭で挨拶する平野局長

契約を締結しました。

安全祈願祭は、工期が平成二十二年三月二十五日までと長期にわたること、また職員が執務しながらの工事であること等から、工事関係者はもとより職員、来庁者等の安全を祈願するため、祭主である(株)守谷商会伊藤代表取締役外関係者、(株)エーシーエ設計からは竜野代表取締役外関係者及び中部森林管理局からは平野局長外関係者が参列しました。

式典は、武井神社の齊藤宮司によって執り行われ、地鎮行事において、竜野取締役による刈り初めの儀、平野局長による鋤入れの儀、伊藤取締役による鋤入りの儀の後、各代表者による玉串奉奠等が執り行われるなか、出席者全員で工事の安全を祈願しました。

シリーズ 現場最前線

みんなぞ 明るい職場づくりを

岐阜森林管理署

白鳥森林事務所 白鳥班

白鳥森林事務所は、岐阜県のほぼ中央に位置する郡上市(和良町を除く)を管轄しています。長良川の上流部で自然に恵まれていること、東海・関西から近いこともあり、鮎釣り、郡上おどり、スキー等年間を通してレジャー客・観光客が多く訪れます。また、昨年七月には東海北陸自動車道が全線開通し交通量も多くなってきています。

国有林の多くは郡上市北部にあり、鮎立中山国有林(高鷲町)が白鳥班の主な作業現場です。また、官行造林地は郡上市一円に点在しています。

白鳥班は、ここ数年、官行造林地の間伐作業を積極的に実施してきましたが、今年度からは基職二名(夏期には臨時が二名)となり、林道付近での間伐・枝打作業、重機による路面整正・横断工設置、丸太を組み合わせた擁壁の作成・設置、収穫調査、境界巡検などを実施しています。また、冬期間は、郡上市民のふれあいの場となっている東殿山国有林(八幡町)に整備された遊歩道等の巡視や枯立木除去作業、各種看板づくりを



看板作製中

行っています。

作製された看板は、東殿山はもとより、金華山、御嶽山等岐阜署管内一円に設置され、国有林のPR、各種啓発等に大いに利用されています。

白鳥班では、朝のミーティングを毎日しっかり行い、その日の体調や職場の雰囲気等を判断し、安全管理に活かし「笑顔の絶えない明るい職場づくり」に心がけています。今後とも無災害を継続し、健康で明るい職場づくりに取り組んでいきます。



人のうごき

林野庁人事(抄)

十二月三十一日付

▽退職(計画部企画官)

浅岡 安雄

中部森林管理局人事

一月十五日付

▽北信森林管理署業務課付(北信署業務課森林ふれあい係長)

山下 結

林野庁人事(抄)

二月一日付

▽中部森林管理局出向総務部付(名古屋事務所)(企画調整室監査官(名古屋事務所副所長))

野々川吉弘

▽企画調整室監査官(名古屋事務所副所長)(総務部専門官(契約適正化))

高見 公一

中部森林管理局人事

二月一日付

▽飛騨森林管理署総務課長(飛騨署古川森林事務所首席森林官)

大坪 幸治

▽飛騨森林管理署古川森林事務所首席森林官(飛騨署付)

塚腰 進

▽飛騨森林管理署総務課付(飛騨署総務課長)

中谷 博



中部山岳国立公園
燕岳 (つばくろだけ)

〔中信署〕松本市の北西に位置する安曇野市(合併前穂高町)の中房国有林には、「燕岳(二、七六三メートル)」があります。この燕岳の名前は、春の雪形がツバメに似ていることが由来とされています。

燕岳登山口へは、水力発電所のそばを通り、中房渓谷風景林のミズナラなどの天然林やカラマツ特別母樹林を過ぎてたどりつきます。登山口には、中房渓谷から引湯している日帰り温泉があり下山者の疲れを癒してくれます。

登山道は、北アルプス三大急登のひとつ、合戦尾根を越えていきます。一気に登ると大変ですが、コース途中には休憩用のベンチと売店もあり、危険な場所が比較的少ないことから、登山初心者の方や学校登山などに利用されています。

燕岳周辺は花崗岩独特の岩の景観が楽



コマクサ

しめします。また、ハイマツ帯の緑と白い山肌に生育しているコマクサのピンクも登山者を楽しませてくれています。付近には山小屋があり、山頂付近で過ごされる方や、縦走する登山をされる方に利用されています。

燕岳は大天井岳から槍ヶ岳へ縦走する表銀座コースのスタート地点でもあります。もしかすると、コースの途中で天然記念物のライチョウに出会えるかもしれません。

餓鬼岳や常念岳、槍ヶ岳などへの縦走登山や、山頂付近の、コマクサの群生地や高山植物、そびえる山々の景色を楽しまれてはいかがでしょうか。

☆アクセス方法 (燕岳登山口)

◎ 自家用車

豊科インターから国道一四七号を経て燕岳・中房方面へ。

お車は、登山者無料駐車場をご利用ください。

* 県道中房線(通称)は、十二月上旬～四月下旬まで冬期間閉鎖です。

◎ 電車

JR大糸線「穂高駅」下車し、乗合いのタクシー・バスをご利用ください。



槍ヶ岳を後方にハイマツ帯に立つライチョウ



稜線からの燕岳